

全国伝統的建造物群保存地区協議会
総会・研修会に参加しました

五月二十五日から二十七日の三日間にわたり石川県加賀市で行われた、平成二十八年度全国伝統的建造物群保存地区協議会の総会と研修会に参加しました。この協議会は重伝建を擁する全国九十一市町村が加盟しており、今回の協議会には六十五市町村の参加がありました。石川県には八地区の重伝建があり、本年度の協議会開催地となった加賀市には「加賀東谷」と「加賀橋立」の二地区があります。研修ではこの二地区を視察したほか、職員研修では各地区の現状や課題、事例の意見交換などが行われました。

今号では、この加賀市にある二地区の重伝建をご紹介します。

石川県の重伝建地区（八地区）



加賀市で協議会が開催され、加賀橋立と加賀東谷の現地視察が行われました。

石川県加賀市 重伝建地区のご紹介

加賀東谷（かがひがしたに）

種別 山村集落

選定告示 平成二十三年十一月二十九日

加賀東谷は、四つの集落からなる保存地区です。江戸時代には炭役が課されて藩の御用炭すべてを生産し、明治時代に入ると炭役や禁炭制度が解かれ、需要の増大に伴い炭焼きが盛んになりました。昭和三十年代に石油、ガス、電気が普及するまで製炭が経済を支え、保存地区の四集落には豊かな山林や集落間のつながりを示す河川とともに歴史的環境が良好に残されています。



保存地区は、大きな切妻屋根に煙出しを設け、赤瓦で葺いた農家が集まって景観の特徴をなしています。

東谷には平成二十年に発足した「かがしたに地区保存会」があり、広報活動や祭りの実施、耕作放棄地の再生、直売所の運営、自然体験教室の開催、地区内の環境整備、古民家の活用など多種多様な活動を行っており、四つの集落の交流と地区の保存や次世代への継承を図り、交流人口と定住人口の増加に繋がる活動を展開しています。



特定物件（主屋）



修理された特定物件（主屋）



特定物件を資料館として利活用



資料館の内観（梁他化粧材に漆が塗られている）



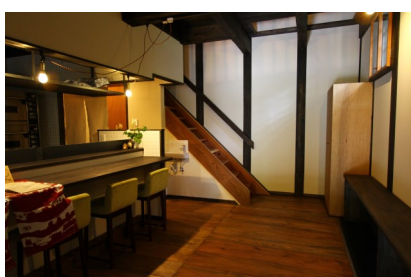
そば店として改修した民家



カフェに改修した蔵



宿として改修した民家



カフェの内観

加賀橋立（かがはしたて）

種別 船主集落

選定告示 平成十七年十二月二十七日

加賀橋立は、近世前半までは茅葺民家が建ち並ぶ半農半漁の集落でしたが、十八世紀半ばから北前船の船主や船頭、船乗りなど北前船にかかわる人々が居住するようになり発展した集落です。集落の人口は次第に増え、十九世紀に入ると橋立特有の切妻造妻入瓦葺の、従来から比べると格段に規模の大きな「橋立北前船主型」の家が誕生しました。汽船や鉄道輸送が発達したため、北前船は明治後半から衰退しましたが、現在、加賀橋立には北前船主や船頭たちの豪壮な建物が数多く残っており、かつての栄華を偲ばせます。



●北前船とは：
江戸時代後半から明治時代にかけて活躍した商船のことで、大阪から日本海を北上し北海道までを往復して、商品を売買し、莫大な富を得ていました。

●橋立集落の民家
赤い瓦屋根と外壁の縦板張りが特徴で、特に外壁の板張りは潮風から家を守るために行われたもので、使用される板材は船板を虫食いから守るために外側に張られていた板を再利用したものです。



資料館の内観（化粧材漆塗り）



修理された蔵



橋立集落の民家（重文）



笏谷石が石垣の他、擁壁などに使用されている



資料館として公開されている民家



付属屋（蔵の外壁も縦板張り）

第八回 上条集落見学会

福蔵院からスタートする見学ルートをご案内いたします。

お知らせ

※申込み・文化財課まで
(☎ 三三二五〇七六)

日 時 七月二十四日（日）
午前十時～正午

集合場所 福蔵院駐車場

※歩きやすい服装でご参加ください
※昼食をご持参ください



外壁や板塀の落ち着いた色のなかにある屋根瓦の赤色が印象的



保存地区のすぐ北が海岸



地元の大学生による説明と研究成果の披露